日本語の「暑さ」を知ろう！猛暑・酷暑・残暑のちがい

日本の夏はとても暑いですが、「暑い」という言葉だけでは、夏の暑さを全部表せません。

日本語には、暑さの強さや時期によって使い分ける言葉があります。

特によく使われるのが、猛暑・酷暑・残暑です。

猛暑は日中の気温が35℃以上のとても強い暑さを表します。

猛暑日には、気象庁から熱中症警戒アラートが出て、熱中症に注意するよう呼びかけます。

酷暑は猛暑より、さらにきびしい暑さです。日中の気温が40℃くらいのときに使います。

残暑は夏の終わり頃の暑さを表します。お盆すぎから9月初めまで続く暑さを指します。

また、残暑の時期には残暑見舞いというあいさつ状を出す習慣があります。これはお盆すぎに書き始め、暑さを気にかける気持ちを相手に伝えるものです。

まだ暑さが続きますが、皆さんもたくさん水分をとって熱中症にならないように乗り切りましょう。